

(様式第1号)

研究No.  
(記載不要)

19 - 立学 - 1

## 平成 19 年度配分 研究成果の概要

研究名	大学生の心理的適応過程 ：学業への意欲と進路意識の発達に注目して				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長 特別研究費 660 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	文化政策	准教授	福岡欣治	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 9 (または10) 号 (※執筆予定)
	2 学会等での発表 学会等名: 日本発達心理学会 および関連他学会(日本教育心理学会等)			発表日 (発表 予定日)	平成 21 年3月 (※発達心理学会)
	3 その他 発表の方法:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

大学生は、親からの心理的離乳、自我同一性の確立という発達課題に取り組みつつ、大学という新たな環境に適応し学業生活に積極的に関与していかなければならない。他方、卒業後の進路選択に向けた意識を徐々に高めていくことは、キャリア開発の観点からみて重要であり、大学生活における重要な課題の一つである。

筆者は従来から大学生の入学後の心理的適応過程における対人関係の役割について検討してきたが、本研究では特に、学業に対する意欲および進路意識の発達的变化に注目して、その変化の様相を分析するとともに、これらに及ぼす対人関係の影響を検討することを目的とした。

(研究の実施方法等)

本学を含む計3つの大学(本学は文化政策学科等、他大学は生活科学系1校と看護系1校)において、1年生を対象として前期末・後期末の2度にわたり質問紙調査を実施した。調査内容は、大学生活とりわけ学業に対する意欲と行動、精神的健康、進路に対する意識および情報探索行動、仕事に対する価値観、および周囲の他者(友人、家族、教員など)との関係を含めた。無記名ではあるが個人別の識別番号を記載してもらい、縦断的な分析ができるようにした。スケジュール等の概略は下記の通りとした。

平成19年5～6月

先行研究の確認と調査票の構成、実施準備。

平成19年6～7月

第一回の調査実施。現在の進路意識および周囲の他者との一般的な関係性について主にたずねた。

平成20年1～2月

第二回の調査実施。第一回調査の内容に加え、1年間での進路に関する情報探索の実際や進路選択に関連した周囲からの影響等についてたずねた。

(得られた成果等)

大学生活への適応は、環境移行の心理的問題としても、また教育実践上の問題としても重要である。とりわけ、入学者の大半が就職を希望する状況の中では、入学後早い段階から進路意識の段階的な醸成が必要であろう。本研究のデータはその基礎資料として活用し得る。同時に、大学生の心理的適応過程における対人関係の一般的役割に関しても、知見の拡充が期待される。

現時点ではデータ分析を継続中であり、詳細は本年度の日本発達心理学会その他で報告する予定である。分析の主眼は、学業への意欲と進路意識の継時的変化、およびこれらに及ぼす対人関係の影響にある。なお、学会発表での主眼とはしないが、本学と他大学の学生の比較により、教育の対象である学生の状況把握に役立てたい。